



LIXIL

## 大開口建具 上吊片引戸(自閉機能)

取付け説明書

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

## ■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲警告** …取付けを誤った場合に、使用者などが死亡または重傷を負う危険が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

**▲注意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

## ▲警告

●下記のような医用電子機器を使用されている方は、操作を行わないでください。

各医用電子機器に誤作動をまねくおそれがあります。

(1)ペースメーカー等の体内埋込型機器 (2)人工心肺などの生命維持用機器 (3)装着型の心電計など

## ▲注意

●本体脱落のおそれがあるため、下記事項をお守りください。

・吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引っ張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと本体が脱落するおそれがあります。

・ねじは指定のものを指定本数使用して固定してください。

●吊車(ダンパー・ばね付)のばねを引っ張らないでください。1200mm以上ばねを伸ばすとばねが切れたり、外れてケガをするおそれがあります。

## ■取付け上のおお願い

- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。
- 本体重量は1枚あたり最大26kgとなります。本製品は上吊方式を採用しているため必ず構造計算の上、梁(まぐさ)に強度を持たせてください。強度が不足している場合、上枠および、レールの垂れ下がりの原因になります。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠の下地材および、かい木には、合板などの乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
- 梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
- 枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵が上レールや吊車(ダンパー・ばね付き)に付着し、作動不良の原因になります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強過ぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。ただし、たたきこまないようにしてください。保持力低下の原因になります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 枠は倒れ、傾き、タイコ、ツヅミ、ねじれがないように取付けてください。片引枠の場合は、中縦枠の施工にご注意ください。吊込み後、本体とのすき間・干渉の原因となります。
- 片引戸の建具引込み部の半壁は、枠を開口部に取付けてから取付けてください。
- 鴨居取付けねじの締め過ぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
- ガイドピンは「**3**ガイドピンの取付け」通りに正確な位置に取付けてください。本体の開閉操作に支障がでる原因になります。
- 埋込みガイドピン仕様のため、クッションフロアや弾性のある床には取付けしないでください。部品が浮いて開閉に支障をきたす場合があります。
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 別梱のバーハンドルセット内に同梱されている「戸当り」「戸当り受け」は本製品には不要ですので、取付けしないでください。
- 吊車(ダンパー・ばね付き)に潤滑剤などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。
- 製品取付けの際の建具養生時に表面シートにテープ(ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど)を直張りしないでください。テープを剥がす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。

## ■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
  - ・直射日光の当たる場所
  - ・昼夜などで温度差の激しい場所
  - ・湿気の多い場所
- 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
  - ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

## ■部材・部品一覧表

※枠はロックダウン、本体は完成品です。

片引戸本体	片引戸枠	片引用ケーシングセット (ケーシングタイプのみ)
<p>(本体は1枚梱包)</p>		<p>※ケーシングは枠セットと別梱となります。</p>

### ■片引戸本体

名称	入数
本体	1

### ■バーハンドルセット

名称	入数
バーハンドル・オス	1
バーハンドル・メス	1
皿小ねじM5×30	2
取付け説明書	1
※戸当り	1
※戸当り受け	1
※戸当り固定ねじ	1

※の部品は本製品には不要になります

### ■上枠セット

名称	入数
中縦枠側鴨居	1
小縦枠側鴨居	1
目隠し	1
幅木	1
部品セット	1
取付け説明書	1

### ■縦枠セット

名称	入数
縦枠	1
中縦枠	1
小縦枠	1
戸当り	2

### ■部品セット(上枠セット同梱)

名称	入数
固定ガイドピン(皿タッピンねじ2本同梱)	1
埋込みガイドピン	1
埋込みガイドピンベース	1
組立て用小ねじM4×50	4
鴨居取付け用ねじ トラスタッピンねじφ4×50	11
縦枠取付け用DNビス (皿木ねじ)φ3.8×50	6

### ■プッシュ錠セット

名称	入数
プッシュ錠本体	1
錠座カバー (シリンダー錠のみ)	1
皿タッピンねじφ3.5×16 (シリンダー錠のみ)	2
カギ (シリンダー錠のみ)	3
取付け説明書	1

## ■開口部の作り方

### ■開口部寸法の出し方

- ※開口部の水平・垂直を正しく出してください。
- ※本製品は上吊方式を採用しています。梁(まぐさ)は、強度を要するため、NC115の場合は断面寸法50×180(mm)、NC115以外の場合は105×180(mm)以上を使用してください。強度が不足している場合、上枠およびレールの垂れ下がりの原因になります。
- ※梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。

### ■対応壁厚

(単位:mm)

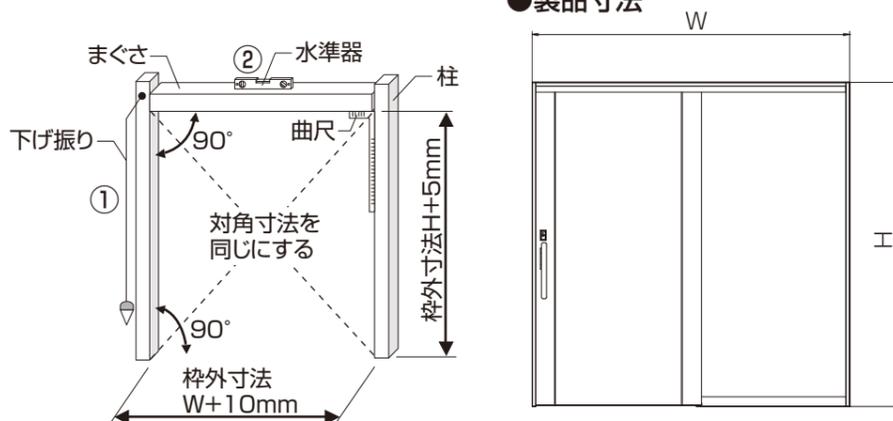
ケーシング付タイプ	対応壁厚
薄壁用	111~152
厚壁用	142~182

ノンケーシングタイプ	対応壁厚
NC115	76~100
NC156	116~130
NC171	131~145
NC180	146~160

### ■壁厚の違いによる枠とケーシングの組合せ (単位:mm)

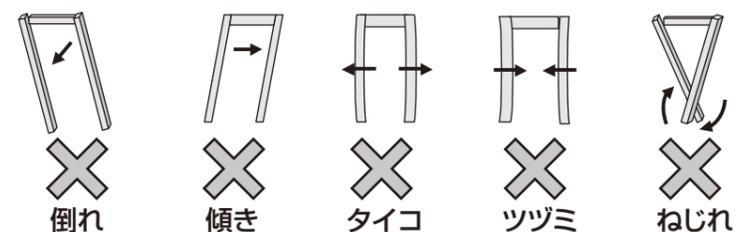
	ケーシング (足寸法)	対応壁厚
薄壁用	8	111~121
	14	122~133
	19	134~141
	25	142~152
厚壁用	8	142~148
	14	149~160
	19	161~170
	25	171~182

### ●製品寸法



- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
- ②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

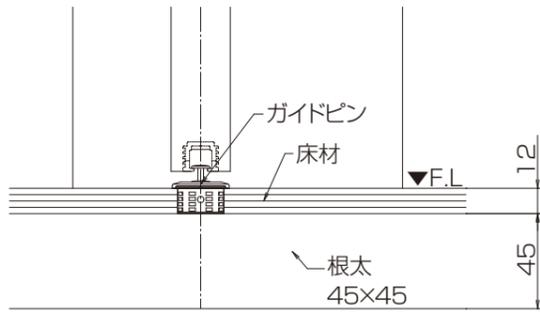
※柱、床、まぐさの水平・垂直がでない場合、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。



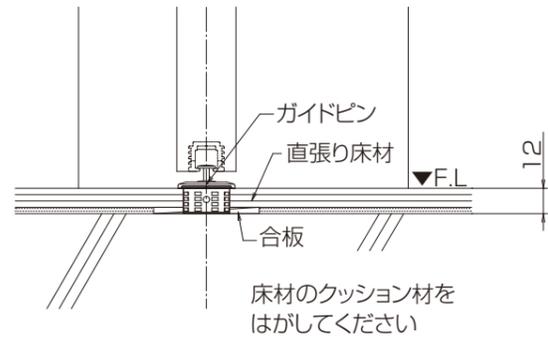
## ■床の張り方

※本製品は床先張り（枠後付け）専用です。枠の取付け前に床を張ってください。

### 木造の場合



### RC造の場合 直張り床材



## ■取付け順序

1 枠の組立て

6 本体の吊込み

2 枠の取付け

7 バーハンドルの取付け

3 ガイドピンの取付け

8 錠の取付け

4 目隠しの取付け

5 戸当りの取付け

### 本体の調整 (8~12/13 ページ)

- 1 左右調整
- 2 上下調整
- 3 ガイドピン位置前後調整
- 4 動作確認
- 5 ブレーキ速度の調整
- 6 キャッチ力の調整
- 7 キャッチ位置の調整
- 8 中縦枠の調整
- 9 引戸錠のかかり調整
- 10 異常時の対処方法

調整が必要な場合

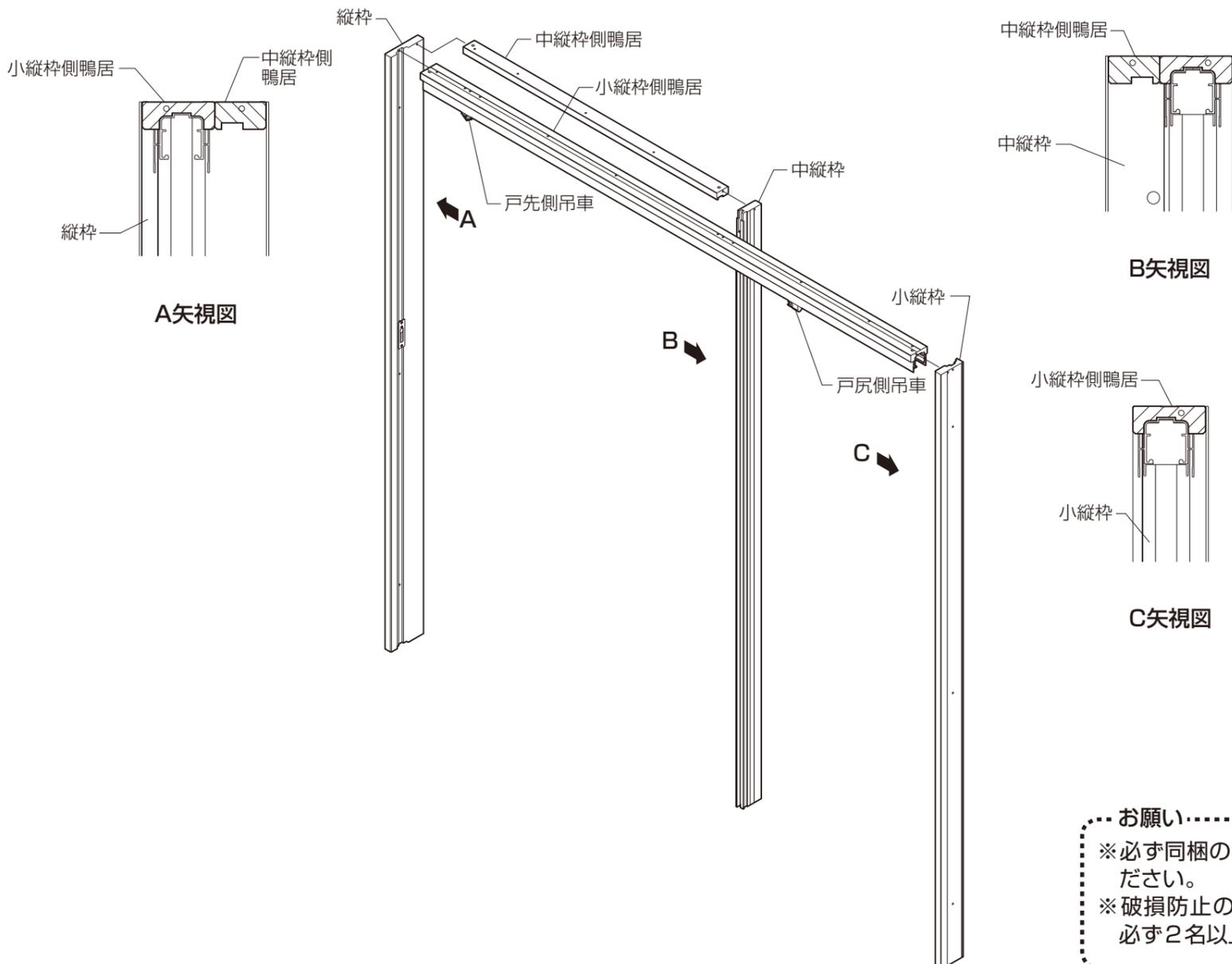
### 1 枠の組立て

※鴨居は小縦枠側と中縦枠側に分割されている仕様となっています。

※小縦枠側鴨居には吊車が取付いています。

①小縦枠側鴨居（アルミレール側）に縦枠と小縦枠を皿小ねじM4×50で固定してください。

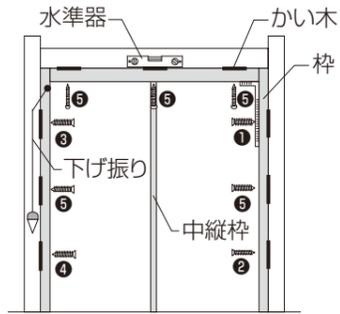
②中縦枠側鴨居に中縦枠を皿小ねじM4×50で固定した後、縦枠側に皿小ねじM4×50で固定します。



お願い

- ※必ず同梱のねじを使用して取付けてください。
- ※破損防止のため、組立て後の移動は必ず2名以上で行ってください。

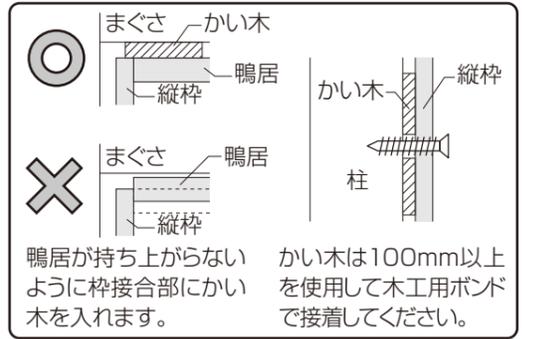
## 2 枠の取付け



※中縦枠が曲がらないように注意してください。

- ① 枠を開口部にはめ込んで、鴨居の水平を確認してから、縦枠の①を仮固定してください。
- ② 下げ振りを使って垂直・倒れないことを確認してから、縦枠の②を仮固定してください。
- ③ 水準器で鴨居の水平を確認してから縦枠の③を仮固定してください。
- ④ 下げ振りを使って垂直・倒れないことを確認してから、縦枠の④を仮固定してください。
- ⑤ 枠の水平・垂直を再度確認して、上下、左右のすき間をかい木で調整後、残りのねじで本固定してください。

※枠に水系を張るなどして枠が曲がっていないことを必ず確認してください。  
 ※縦枠の固定箇所を増やしたい場合は、現場手配の木ねじで躯体に固定してください。



鴨居が持ち上がらないように枠接合部にかい木を入れます。 かい木は100mm以上を使用して木工用ボンドで接着してください。

**お願い**  
 ※枠の倒れ、傾き、タイコ、ツツミ、ねじれがないように取付けてください。

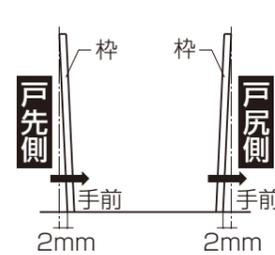
## ■取付け精度の許容範囲

※横方向の倒れ・奥行き方向のねじれ・枠のタイコ・ツツミが図の寸法をこえる場合は、取付けを修正してください。(引戸が吊込めない・吊車(ダンパー・ばね付き)の作動不良の原因となります。)

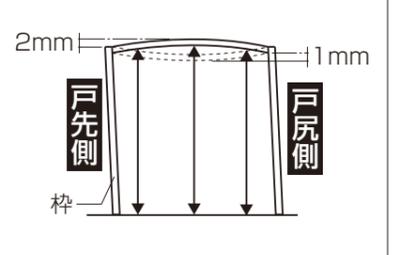
### ●横方向の倒れ



### ●奥行き方向のねじれ

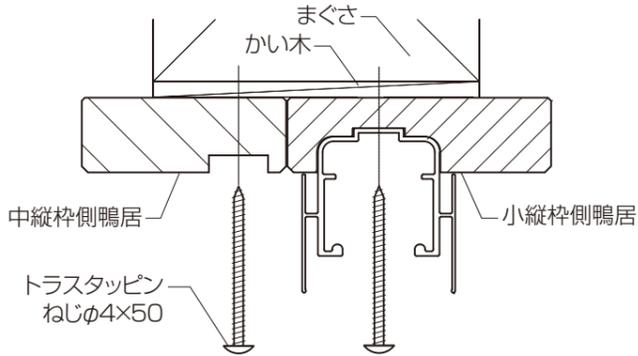


### ●枠のタイコ・ツツミ

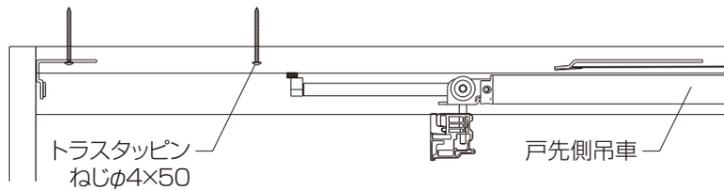


### ●鴨居

※鴨居はトラスタッピンねじφ4×50で固定してください。

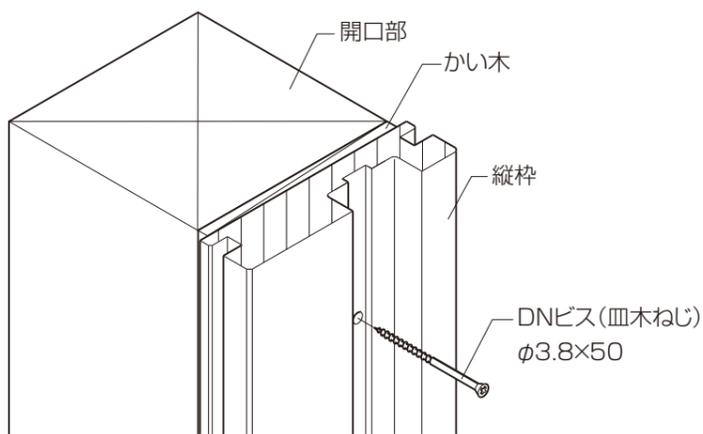


※戸先側2箇所は戸先側吊車を戸尻側にスライドさせて固定してください。戸先側1箇所はマグネット受け金具も一緒に固定してください。

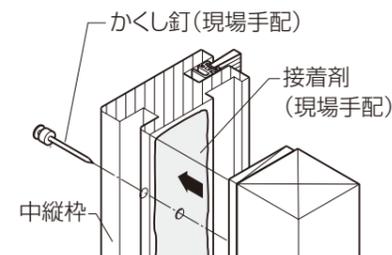


### ●縦枠・小縦枠

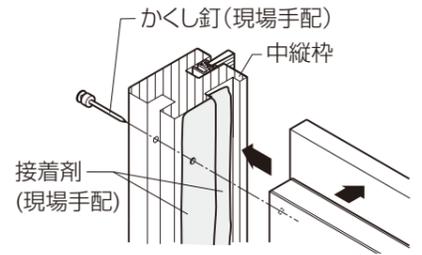
※ DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定してください。



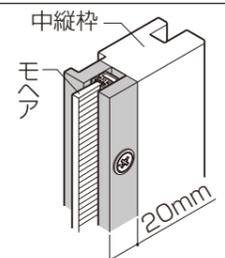
### ●中縦枠



### ●NC115中縦枠



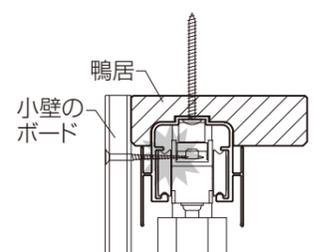
※中縦枠を固定する際、釘やタッカーをモヘア側から表裏20mmの斜線部には打たないでください。中縦枠にはモヘアを調整する機能が付いているため部品が破損し調整出来なくなります。



※裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、専用のかくし釘で固定します。

### お願い

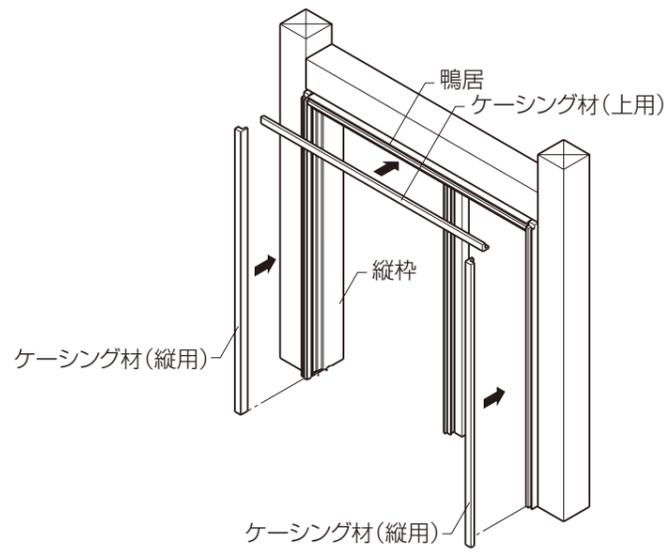
- ※片引きの建具引込み部の小壁は、枠を開口部に取付けてから施工してください。小壁のボードを取付ける際、取付けねじが鴨居と上レールを貫通しないように注意してください。作動不良の原因となります。
- ※本体重量は1枚あたり最大26kgとなります。本製品は上吊方式を採用しているため必ず構造計算の上、梁(まぐさ)に強度を持たせてください。強度が不足している場合、上枠および、レールの垂れ下がりの原因となります。
- ※梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
- ※鴨居の躯体固定ねじを締めすぎると、本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合はねじをゆるめてください。
- ※中縦枠の位置出しには、同梱の幅木(正寸カット済み)を使用してください。



## ■ケーシング材の取付け

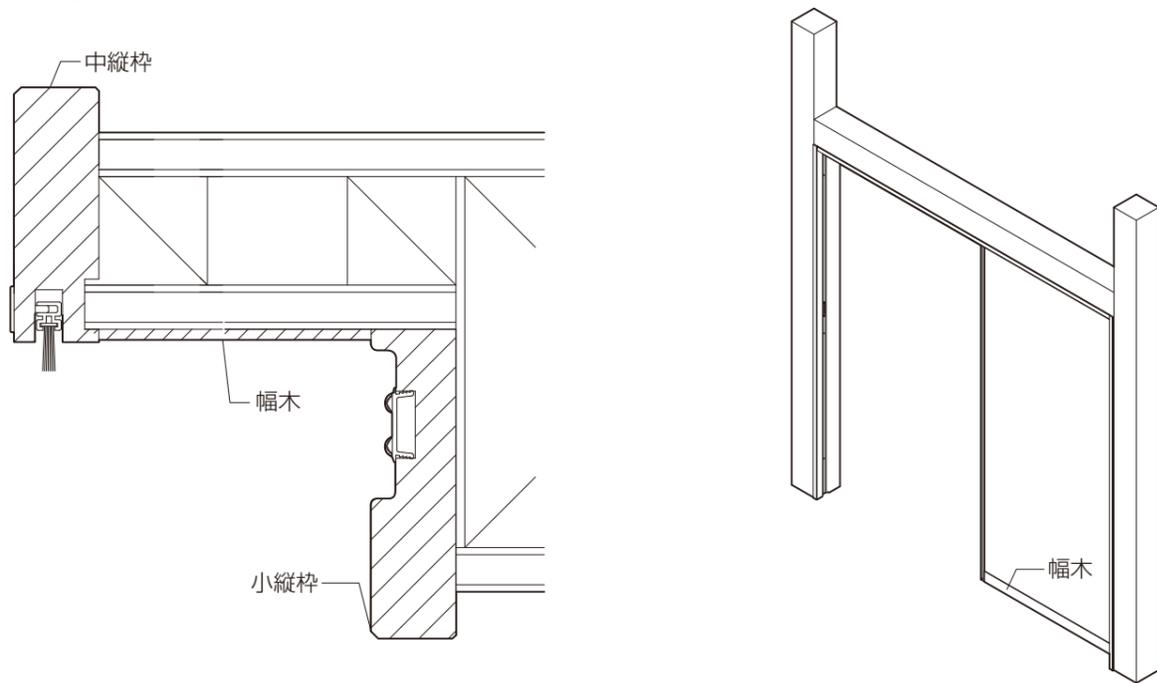
※壁材・床材を仕上げた後、ケーシング材を取付けます。

- ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
- ②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
- ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤（現地手配）を塗布し、ケーシングを固定します。



## ■幅木の取付け

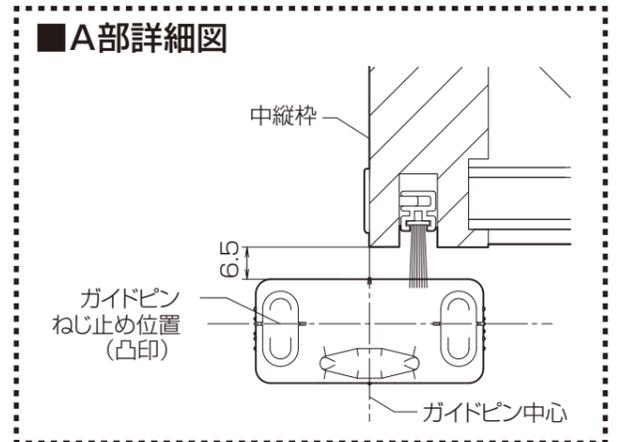
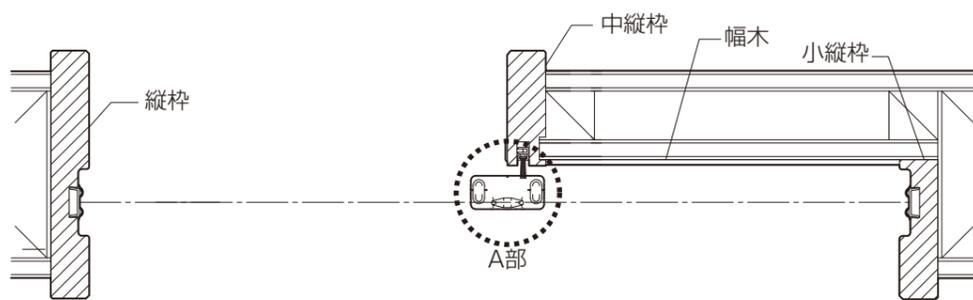
※小壁のボードと床材を見切るために幅木が同梱されています。幅木部材の裏面にまんべんなく接着剤（現場手配）を塗布し、専用のかくし釘で固定します。かくし釘のピッチは、200~300mmです。



## ■3ガイドピンの取付け

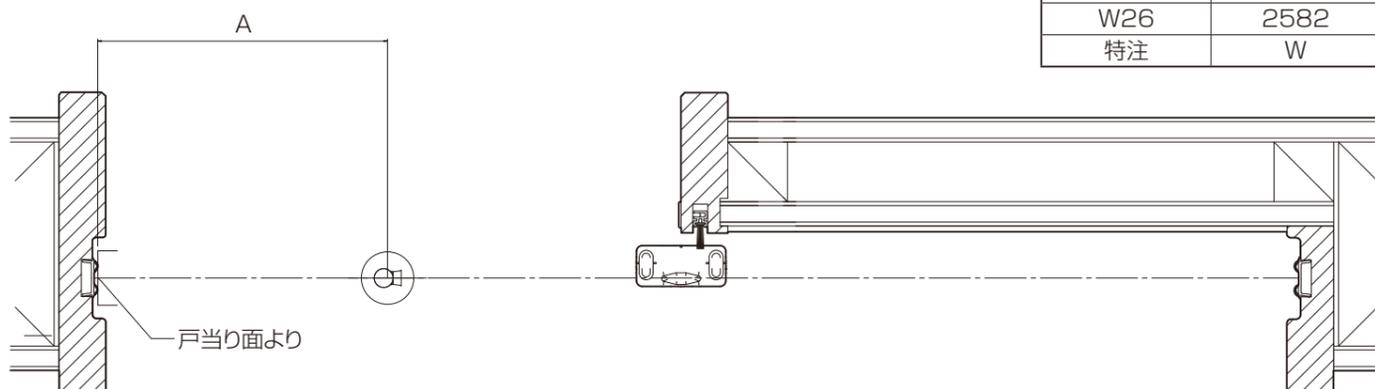
### ①固定ガイドピンの取付け

- ガイドピンを枠に同梱のねじ（皿タッピンねじφ3.5×20）で床材に固定します。
- ※本体の開閉操作に影響が出ますので、A部詳細図にしたがって取付けてください。
- 図の位置および向きにガイドピンを置き、ガイドピンの長穴（2カ所）の凸印（ライン）の位置にねじ止めしてください。
- ※図は、左勝手を示します。右勝手の場合は、図と左右対称の位置となります。



### ②埋込みガイドピンの位置出し

- 下図の位置にガイドピンの位置出しをしてください。
- ※位置のズレは開閉方向で±10mm以下、本体の面方向で±2mm以下で位置出しをしてください。ズレが大きい場合、開閉時に本体がピンから外れる場合があります。



### ●サイズ別ガイドピン取付け位置（A寸法）（単位:mm）

呼称	W	DW	A寸法
W20	1982	1038	450
W22	2182	1138	500
W26	2582	1338	600
特注	W	(W+94)/2	(W-182)/4

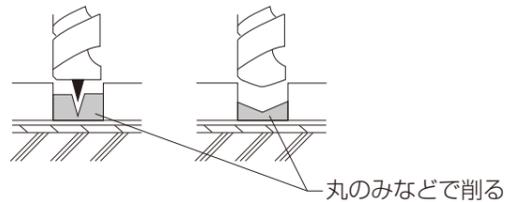
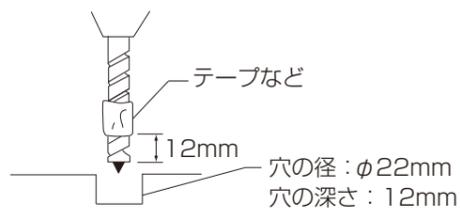
③埋込みガイドピンの位置にドリル(φ22)で穴を開けてください。

※ドリルの穴の深さの位置にテープを巻き目印とすると確実に12mm深さの穴をあけることができます。

※穴の深さが不足していると埋込みガイドピンベースが最後まで入らず走行性が悪くなります。

※穴をあけた後、バリ、切粉を取り除いてください。

※穴をあける際は床に対してドリルを垂直にしてください。本体開閉時の走行性が悪くなるおそれがあります。

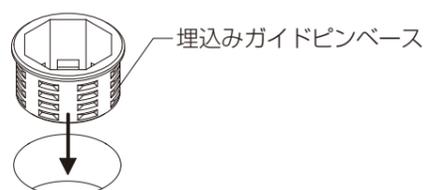
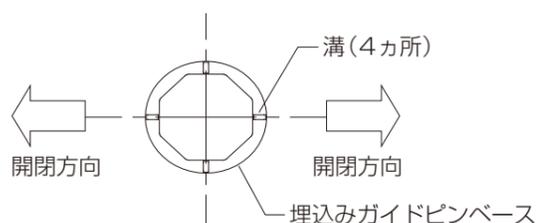


※フローリングが直貼の場合は穴を途中まであけ、丸のみなどで削って仕上げてください。

④埋込みガイドピンベースを部品のつば部の溝が本体の走行方向に並行、または垂直になるように穴にはめ込んでください。

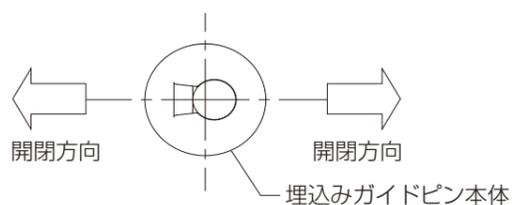
※直接部品をたたかず、あて木などを使用してください。床にキズがついたり部品が破損するおそれがあります。

※確実に埋込みガイドピンベースがはまっていることを確認してください。



⑤埋込みガイドピンベースにガイドピン本体を図のようにカチッと音がするまで押込んでください。

※本体の吊込み後にピンの位置調整をします。本体吊込み後に、ガイドピン本体を取付ける場合は紛失に注意してください。

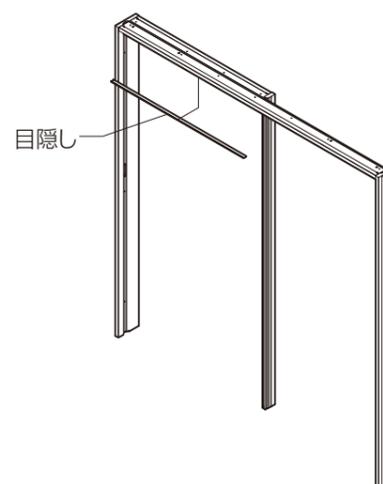
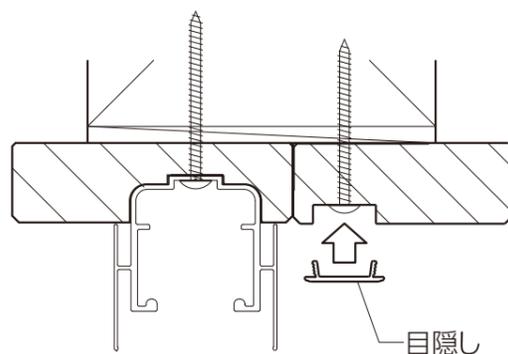


#### 4 目隠しの取付け

●目隠しに接着剤(現場手配)をつけて中縦枠側鴨居に取付けます。

※目隠しカバーが長い場合は、無理に入れずに必要量を切詰めてください。

※目隠しカバーの接着は必ず枠の建付け完了後に行ってください。

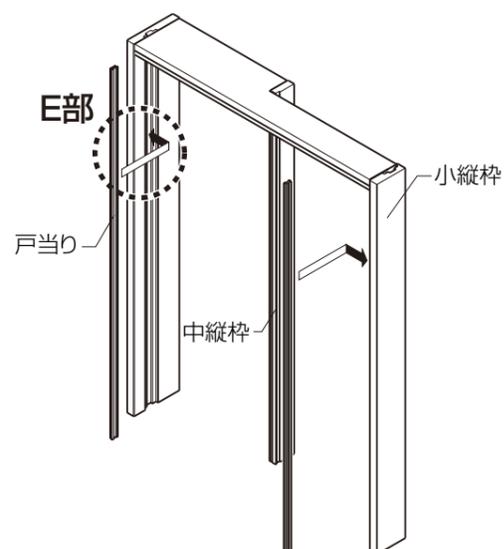
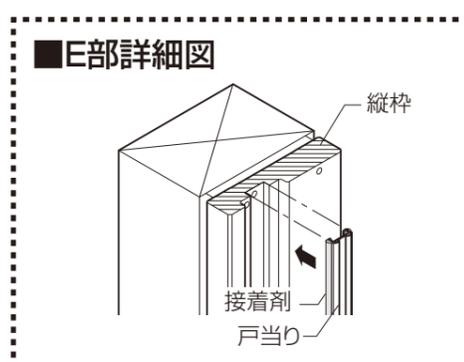


#### 5 戸当りの取付け

①戸当りを現場の寸法に合わせて切断します。

②戸当りに接着剤(現場手配)をつけて縦枠に取付けます。

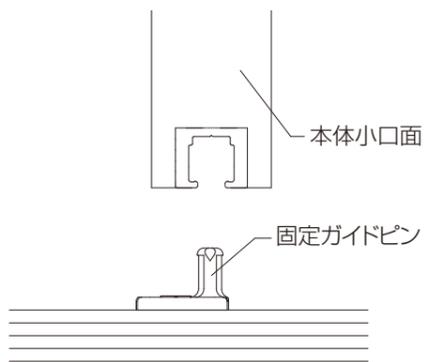
※戸当りの接着は必ず枠の建付け完了後に行ってください。



## 6 本体の吊込み

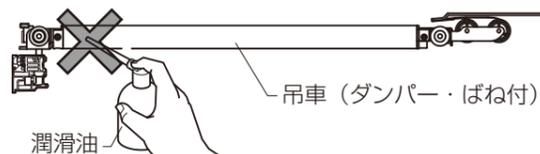
※本体の吊込み前に以下の作業を行ってください。

①本体を持上げて、本体下部の溝にガイドピンを入れます。



お願い

※吊車 (ダンパー・ばね付き) に潤滑油などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。



### ▲ 注意

- 吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引っ張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと本体が脱落するおそれがあります。

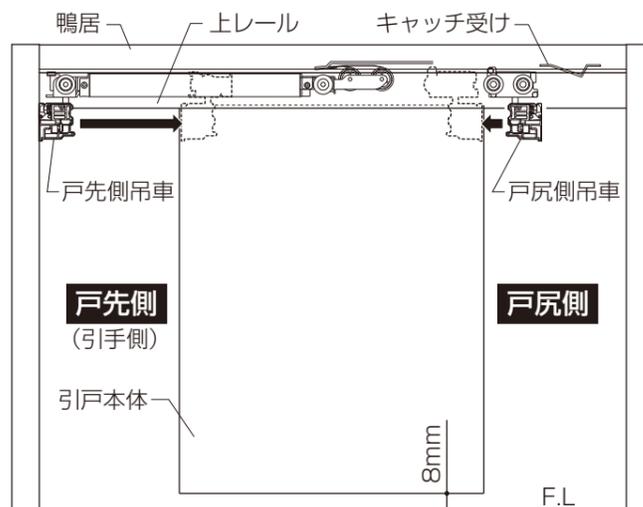
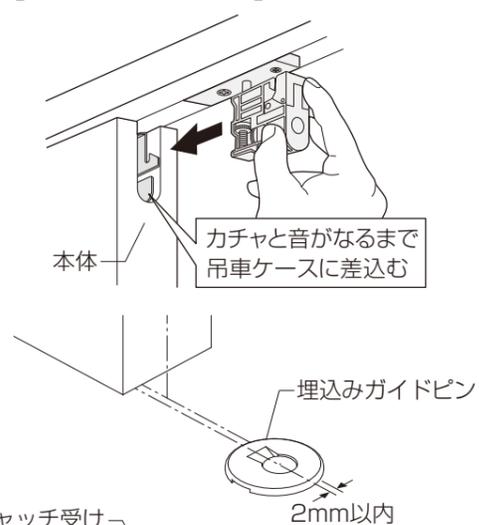
②片側ずつ吊車を本体に**水平に押し込む**と、ワンタッチで取付けられます。

③本体と床のチリ寸法が  $8(-1, +2)$ mm の範囲にあることを確認してください。調整が必要な場合は『■本体の調整2上下調整』の手順にそって調整をしてください。

※本体と床のすき間が範囲から外れていると、ガイドピンが外れたり、ガイドピン本体と引戸の下部がこすれる場合があります。

④埋込みガイドピンの中心が本体の中心から 2mm 以内にある事を確認してください。調整が必要な場合は、『■本体の調整3ガイドピン位置前後調整』の手順にそって調整をしてください。

### 【本体の取付け方】



## 7 バーハンドルの取付け

バーハンドルの取付けについては、別梱のバーハンドルセットに同梱の取付け説明書をご覧ください。また、バーハンドルに同梱の戸当りは使用しません。

## 8 錠の取付け

※錠の取付けについては、錠セットに同梱の取付け説明書をご覧ください。

## ■ 本体の調整

### 1 左右調整(調整幅左右各1.5mm)

●左右調整は上吊片引戸の場合、中縦枠と本体のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ9mm)に実施してください。

- ①吊車を本体から外します。
- ②下記の上下調整の手順で、幕板とあたらない位置まで吊車を下げます。
- ③左右調整ねじをゆるめ、左右に吊車を動かして位置を調整します。
- ④左右調整ねじをゆるみなく締め、本体を取付けます。

※左右調整した場合は、本体が常に垂直になるように埋込みガイドピンの調整をしてください。  
調整しないと開閉時にガイドピンが外れてしまう場合があります。

### 2 上下調整(調整幅 上5mm、下3mm)

●プラスドライバーで吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

※床面と本体下部とのチリ寸法は、8mmが標準です。  
※本体を下げ過ぎると埋込みガイドピンが当たりますので、下げ過ぎないようにご注意ください。

### 3 ガイドピン位置前後調整(調整幅4mm)

●固定ガイドピンを切欠き部(2カ所)にマイナスドライバーを同時に差込んで外してください。

※切欠き部1カ所だけで外すと、製品が変形するおそれがあります。  
※床にキズがつかないようにマイナスドライバーの下にあて布をして外してください。

●本体が静止していることを確認し、本体の中心線上にガイドピンの先端がくるようにガイドピンをまわして位置をあわせてください。

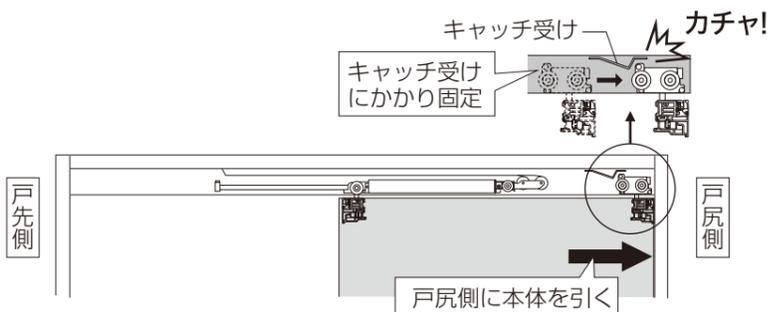
※中心のズレは2mm以下に調整してください。  
※中心がずれていると、開閉時にガイドピンが外れてしまう場合があります。

※ガイドピンケース内部、ガイドピン本体にゴミなどが入り込んでいる場合はきれいに取り除いてください。

●位置があったらガイドピンをガイドピンケースへ最後まで押込んでください。

### 4 動作確認

●本体を全開します。カチャと音がするまで本体を戸尻側に引きます。

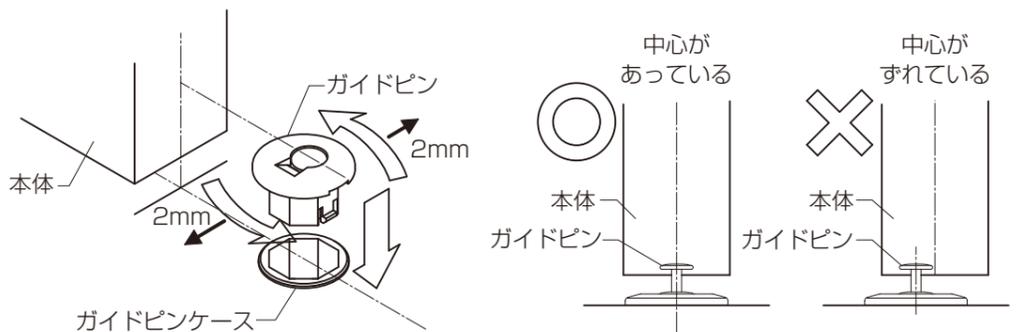
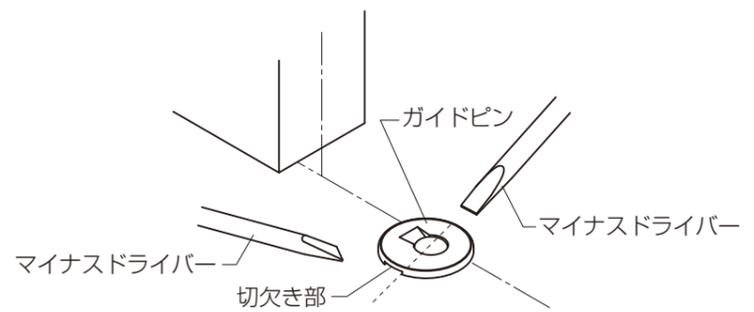
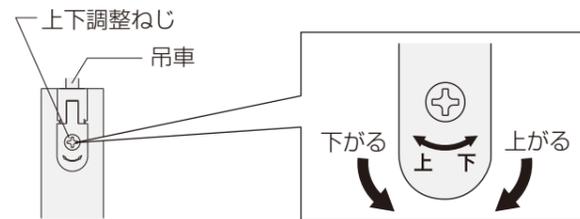
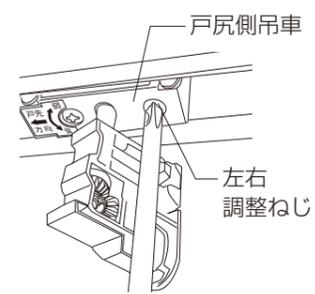
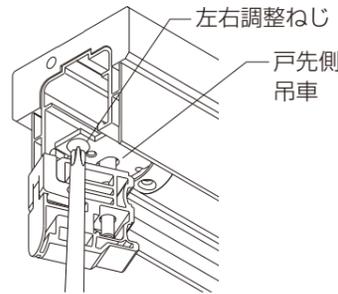
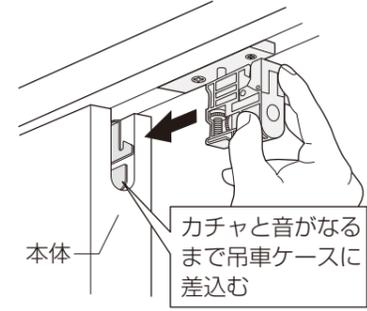


お願い  
※本体の調整には手回しドライバーを使用してください。調整ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。

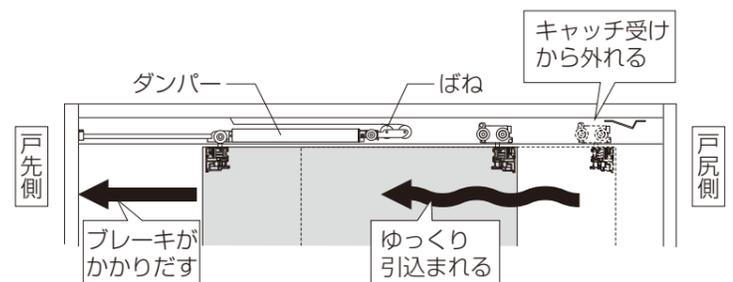
#### 【本体の取外し方】



#### 【本体の取付け方】

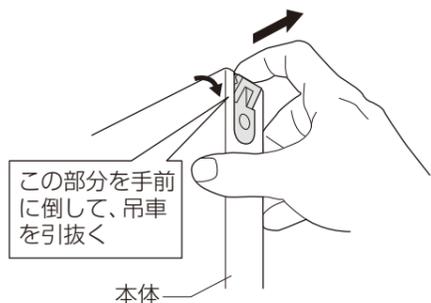


●本体を全閉します。本体を引手側に引くと、自閉機能の動きで、本体がゆっくりと引手側に引込まれていきます。

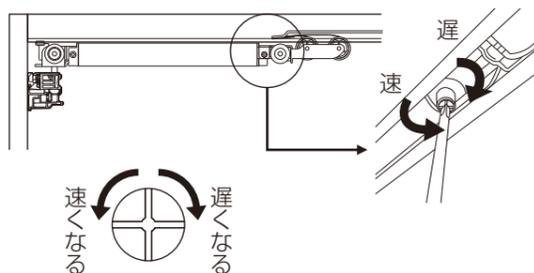


## 5 ブレーキ速度の調整

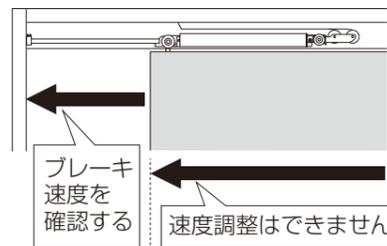
①戸先側吊車を本体から外します。



②速度調整ねじで速度を調整します。



③調整後、本体を取付けて速度を確認してください。  
※閉まる直前から全閉までの速度調整です。全開から閉まる直前までの速度調整はできません。

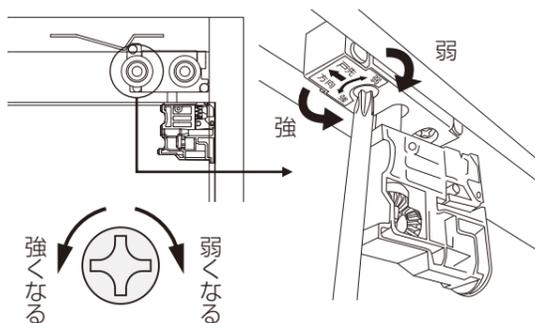


## 6 キャッチ力の調整

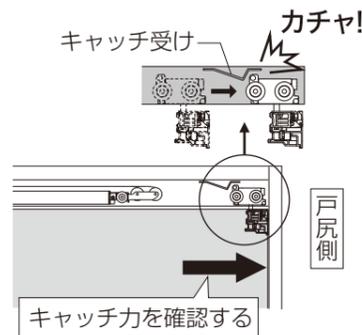
①戸尻側吊車を本体から外します。



②キャッチ力調整ねじでキャッチ力を調整します。



③調整後、本体を取付けてキャッチ力を確認してください。



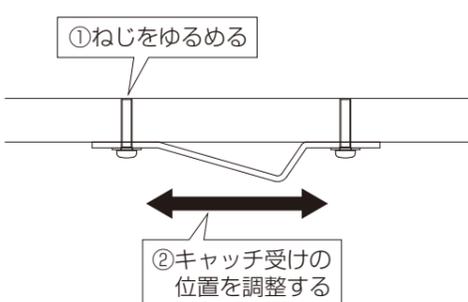
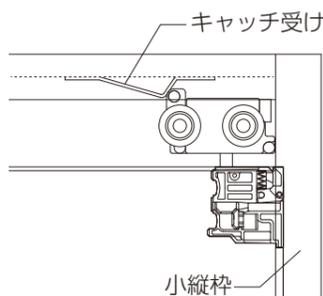
## 7 キャッチ位置の調整

※全開した際、小縦枠と本体戸尻にすき間が開く場合に調整してください。

キャッチ受けのねじをゆるめ、キャッチ受けの位置を調整します。

(調整幅左右各 4mm)

調整後はねじをゆるみなく締付けてください。



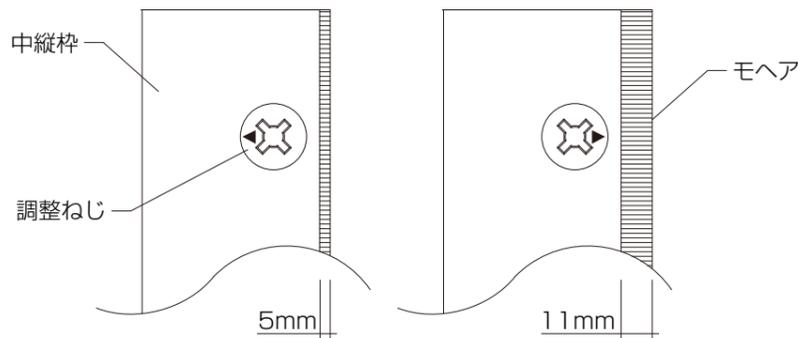
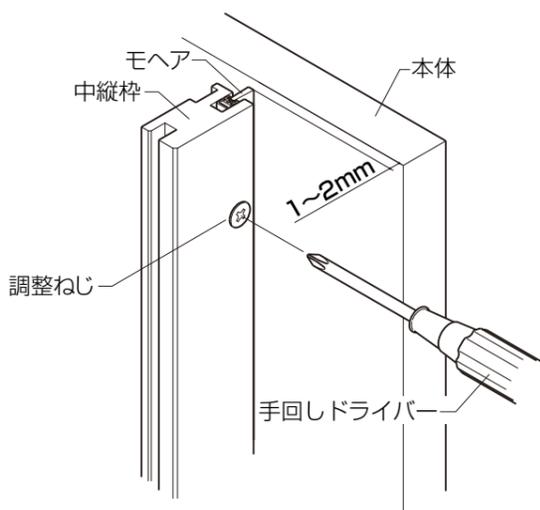
## 8 中縦枠の調整(調整代 +6mm)

※本体とモヘアのすき間が 1 ~ 2mm 程度になるように調整してください。

出荷時には輸送時のモヘアの折れ曲がりを防ぐためモヘアを最も引っ込めた状態で出荷しています。

①中縦枠のモヘア調整ねじを手回しドライバーで回してモヘアの出寸法を調整してください。

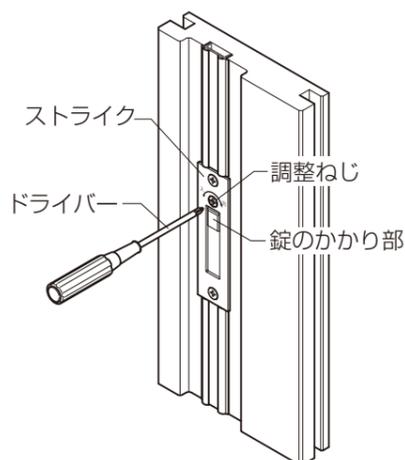
②調整後、本体とモヘアの先端が 1 ~ 2mm のすき間が確保されているか確認してください。



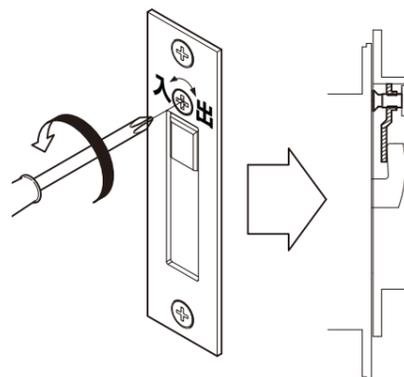
調整ねじの▲マークがモヘア側に向いている時がモヘアが最も出ている状態で、逆に向いている時が最も引っ込んでいる状態です。

## 9 引戸錠のかかり調整

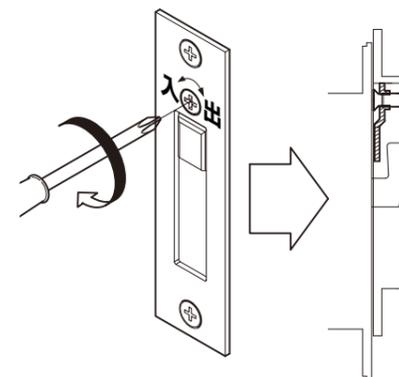
- ストライクの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。



- 本体と引戸錠のすき間が大きい場合  
調整ねじを左に回して調整してください。



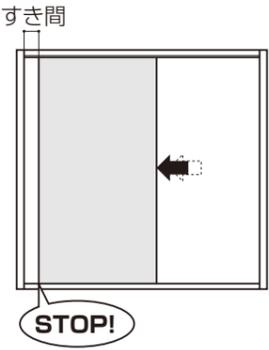
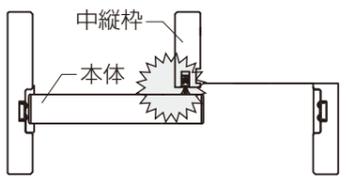
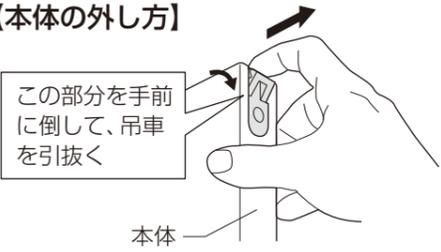
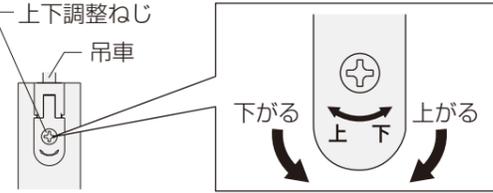
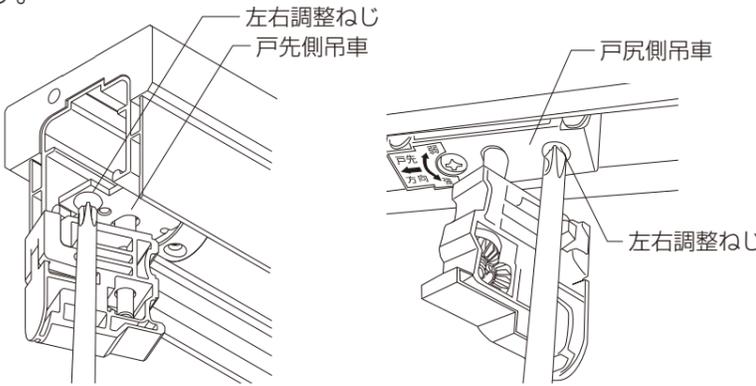
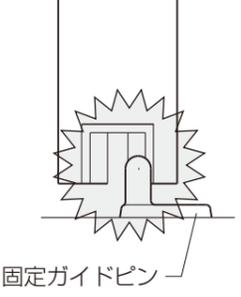
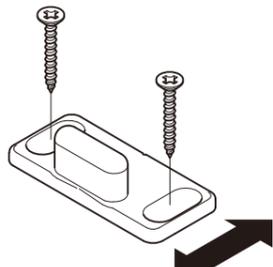
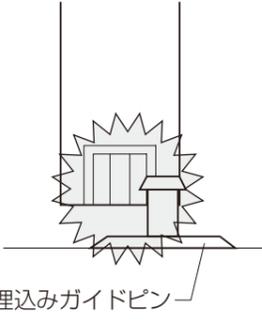
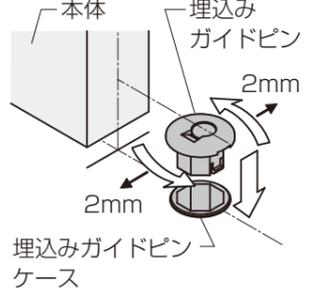
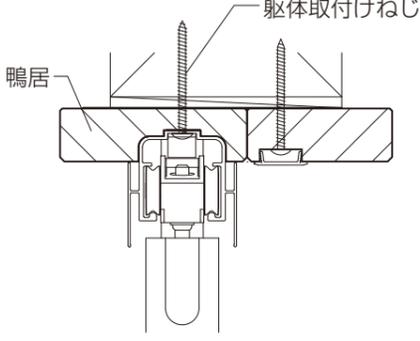
- 錠がかかりにくい場合  
調整ねじを右に回して調整してください。

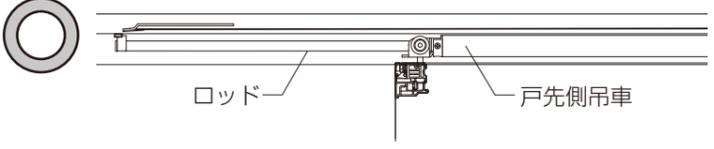
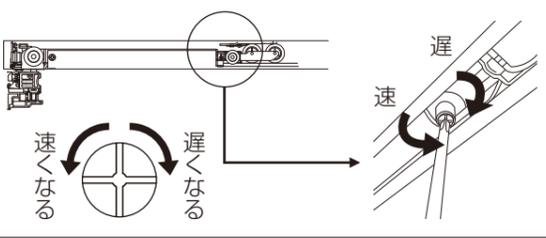
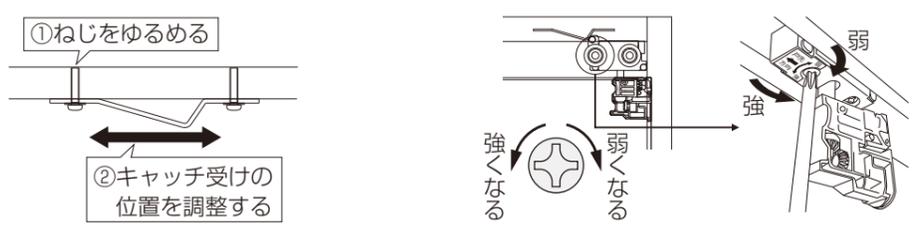
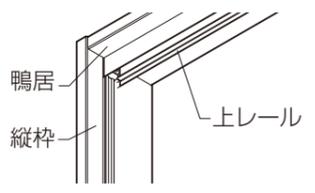
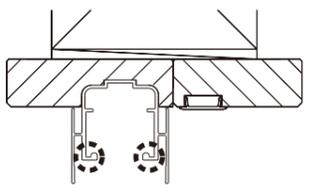
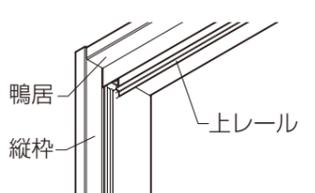
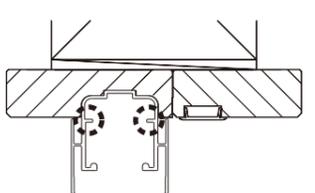
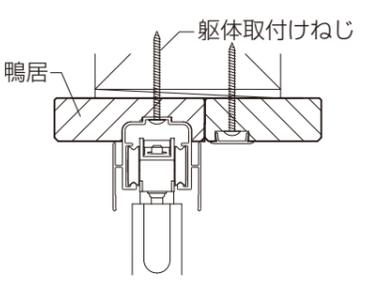


※美和ロック FN 錠ストライクには、錠のかかり調整機能は付いていません。  
調整が必要な場合は、吊車上下調整 (8/13) で対応してください。

## 10 異常時の対処方法

No.	現象	チェックポイント	対処方法
①	鍵がかからない 	●ストライク調整が不適當	ストライク調整ねじを右に回してください。
		●本体の上下位置が不適當 ●本体が傾いている <b>■吊車の調整 (自閉機能)</b> プラスドライバーで吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。 (調整幅 上 5mm、下 3mm)	
②	鍵が甘い (縦枠と本体戸先にすき間が開く)	●ストライク調整が不適當	ストライク調整ねじを左に回してください。
		●本体の上下位置が不適當 ●本体が傾いている <b>■吊車の調整 (自閉機能)</b> プラスドライバーで吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。 (調整幅 上 5mm、下 3mm)	

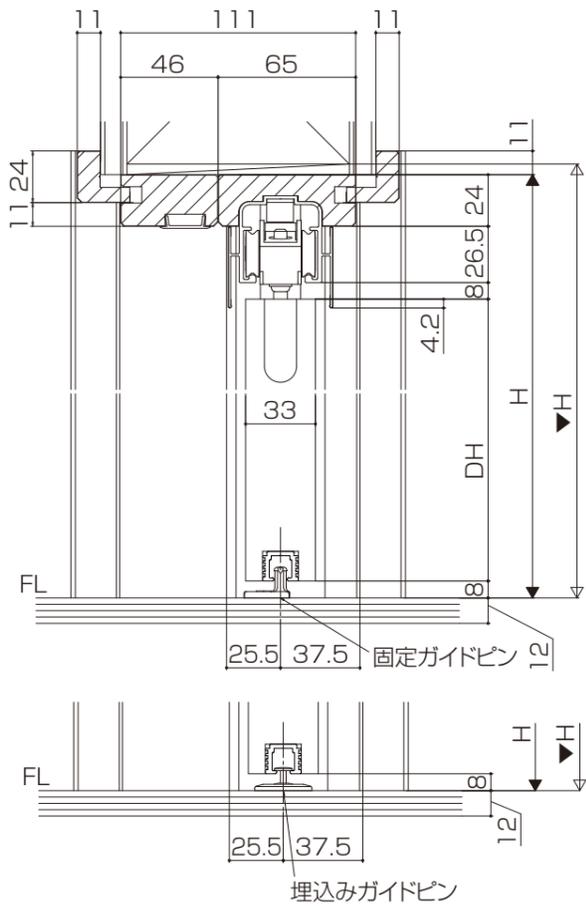
No.	現象	チェックポイント	対処方法
③	閉まりきらない 動きが重い  	●本体とモヘアが接触している  	吊車の左右調整ねじで本体にモヘアが触れて開閉が重くならないよう調整してください。  <b>■吊車の調整</b> ①吊車を本体から外します。 ②上下調整ねじで幕板とあたらない位置まで吊車を下げます。 ③左右調整ねじをゆるめ、左右に吊車を動かして位置を調整します。 ④左右調整ねじをゆるみなく締め、本体を取付けます。  <b>【本体の外し方】</b> この部分を手前に倒して、吊車を引抜く     
		●本体が固定ガイドピンと擦れている  	本体が固定ガイドピンと擦れないように調整してください。  <b>■固定ガイドピンの調整</b> ねじを外して前後に調整して固定してください。  <b>■吊車の調整</b> 上記の手順と同様に、調整してください。  
		●本体が埋込みガイドピンと擦れている  	本体が埋込みガイドピンと擦れないように調整してください。  <b>■埋込みガイドピンの調整</b> ガイドピン位置前後調整 (8/13) を参照して調整してください。  <b>■吊車の調整</b> 上記の手順と同様に、調整してください。  
		●鴨居の躯体取付けねじの締め過ぎでレールがすぼんでいる  	躯体取付けねじをゆるめてください。  

No.	現象	チェックポイント	対処方法
④	ブレーキが効かない	●開時に、戸先側吊車（ダンパー・ばね付）のロッドが伸びきらない	戸先側吊車（ダンパー・ばね付）を交換してください。  ロッド 戸先側吊車
		●ロッドは伸びきるが、ブレーキが効かない	速度調整ねじを調整してください。 <b>■ブレーキ速度の調整</b> 上記の手順と同様に、吊車を本体から外します。 速度調整ねじで速度を調整します。  遅 速 速くなる 遅くなる
⑤	（全開時）静止状態にならない	●戸尻側のキャッチ部の調整ができていない	キャッチの位置、キャッチ力の調整をしてください。 <b>■キャッチ位置の調整</b> <b>■キャッチ力の調整</b> キャッチ受けのねじをゆるめ、キャッチ受けの位置を調整します。（調整幅左右各 4mm） 調整後はねじをゆるみなく締めつけてください。  ①ねじをゆるめる ②キャッチ受けの位置を調整する 強くなる 弱くなる 強 弱
⑥	異音が発生する （上レールと車輪部）	●上レールにゴミが付着している  鴨居 縦枠 上レール	上レールの下部ガイド部を清掃してください 
	異音が発生する （上レールとロッド先端部）	●上レールにゴミが付着している  鴨居 縦枠 上レール	上レールの上部ガイド部を清掃してください 
		●鴨居の躯体取付けねじの締め過ぎでレールがずぼんでいる	躯体取付けねじをゆるめてください。  鴨居 躯体取付けねじ
	異音が発生する （戸先側吊車 ばね部）	●開閉操作で「カシャカシャ」という異音が発生	ばねが損傷し切れるおそれがあるため戸先側吊車（ダンパー・ばね付）を交換してください。  戸先側吊車 ばね

■納まり図

■上吊片引戸ユニット  
ケーシング付

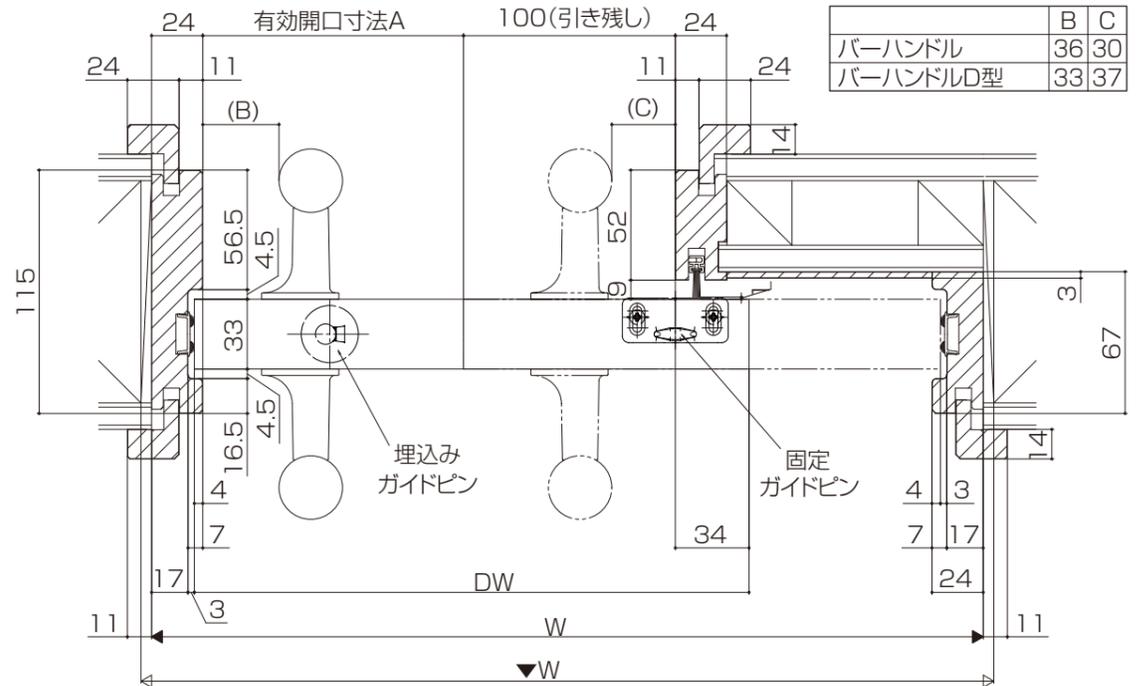
縦断面図



埋込みガイドピン配置図



横断面図



※この図は両側バーハンドルの例です。

有効開口寸法

W呼称(枠外寸法)	A寸法	D寸法
W20(1982)	900	450
W22(2182)	1000	500
W26(2582)	1200	600

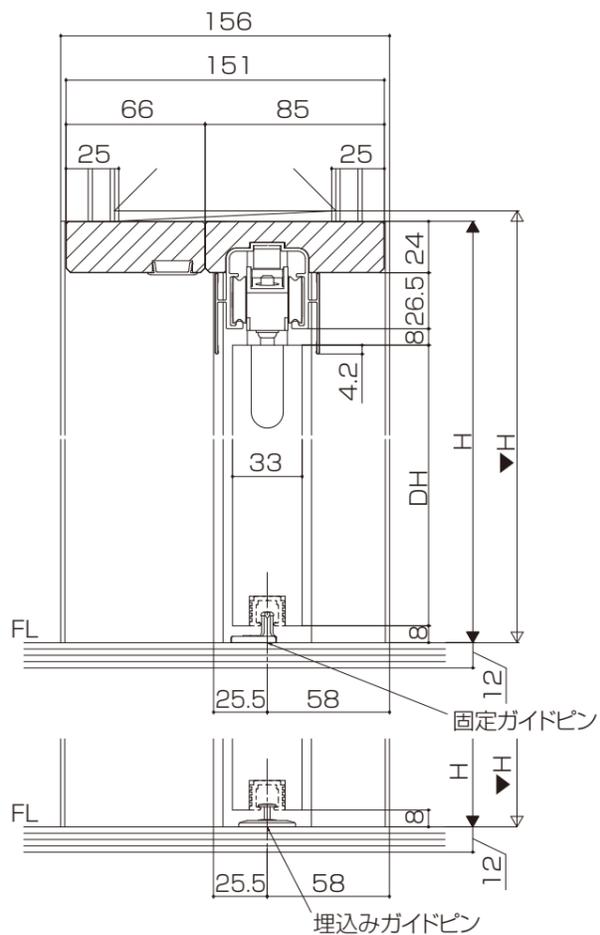
算出式：A寸法=(W-182)/2

DW=(W+94)/2

D寸法=(W-182)/4

ノンケーシング

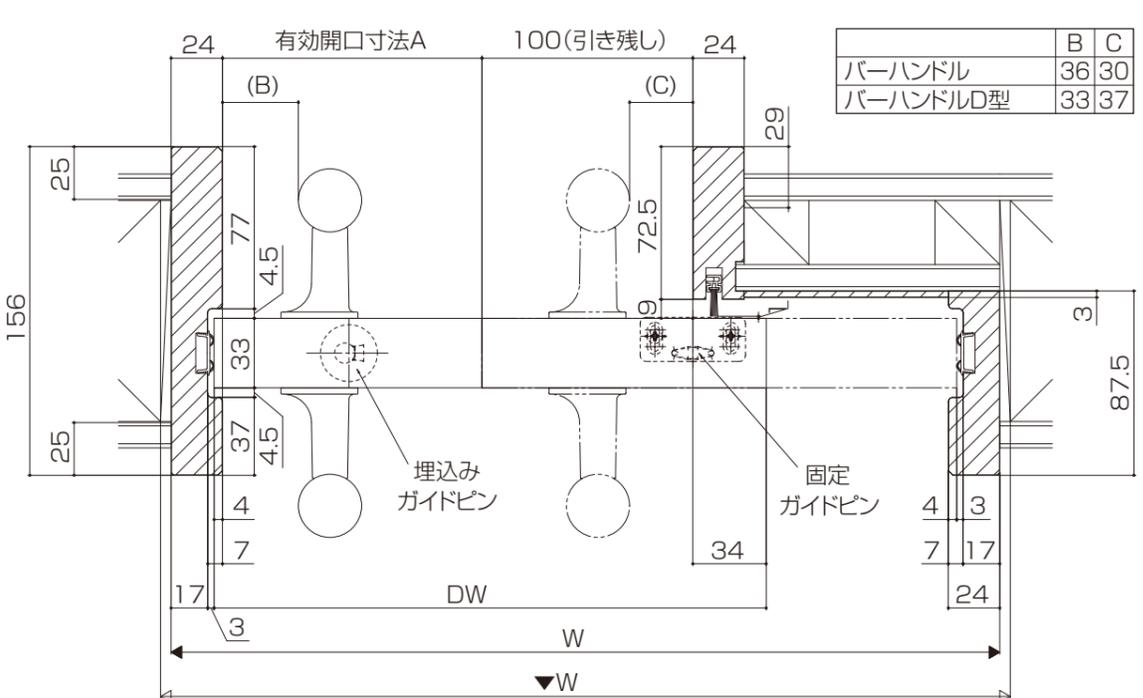
縦断面図



埋込みガイドピン配置図



横断面図



※この図は両側バーハンドルの例です。

有効開口寸法

W呼称(枠外寸法)	A寸法	D寸法
W20(1982)	900	450
W22(2182)	1000	500
W26(2582)	1200	600

算出式：A寸法=(W-182)/2

DW=(W+94)/2

D寸法=(W-182)/4